

大谷地下資源研究所を開設

調査・観測成果を地域に還元

川崎地質



川崎地質は、宇都宮市に「大谷地下資源研究所」を新設した。同市大谷地区での長年の地質調査や観測業務で得られた調査資

料を整理・開示し地域に還元する。8月から一般公開し、当面は第1、第3土曜日を開館日とする。事前に申し込みがあれば日本地質学会などの学会関係者や近隣の高校・大学などに広く門戸を開く予定だ。専用ホームページを8月1日に開設し、予約を受け付ける。最終的には通年開館できる施設を目指す。

大谷石の産地として知られる大谷地区は、戦後の経済成長と採掘の機械化に伴い、1950年代に陥没が多発し、60年代半ば以降も散発的に陥没が発生。89年には平野部で民家を巻き込む大規模な陥没事故が起こっている。

同社は、その事故を契機に、約34年にわたって大谷地区の安全・安心を守るため、ボーリング調査とボーリング孔を利用したステレオ写真撮影や形状の計測と物理探査による地質調査、地震計による落盤振動の監視を行っている。

研究所は、これまでの貴重な調査資料を収集・整理し、防災関連データも含めて公開することで地域の歴史や現状への理解を深め、今後の地域整備に役立ててもらうことを目的に、創業者も多く参加して開所を祝った。

26日には同市駒生町2931-2の研究室内で開所式があり、栃本泰浩社長をはじめ同社幹部のほか、栃木県や宇都宮市、大谷地域整備公社など地元関係者も多く参加して開所を祝った。

席上、栃本社長は「学術的にも観光資源としても他に類を見ない希少価値のある施設と自負している」と研究所開設の意義を強調した上で「今後も安全確保を基軸としながら、学識者の協力も得て地域に少しでも役立つ取り組みを進めていきたい」と語った。

※出典：建設通信新聞（2023年7月27日付3面掲載）

※上記記事の転載は、新聞社から了解を頂いております。